

安全担当の実践学 ～現物現場からの提言～

古賀良男 著

中央労働災害防止協会 2000年4月刊 ISBN4-8059-0691-X (1600円+税)



目次

はじめに
第一章 安全とは何か
第二章 不安全行動災害を防ぐ
第三章 安全に強い人づくり
第四章 生きた5S活動
第五章 災害が発生したら
第六章 安全べからずアラカルト
あとがき

本書は、現場（株）ブリヂストンの安全担当者としての長年の経験をもとに、安全管理や安全手法の“考え方と進め方”について、現場第一線への支援活動を通じ「どのように定着させるのか」「いかに徹底・継続させていくのか」という視点から、現場の実体験に基づいて具体的に述べられている。

第一章の「安全とは何か」では、安全に対する基本的な考えとして世の中に存在するのは『危険』のみであり、安全は存在しないという概念を解説し、常に危険側の視点に立って安全管理を行う必要性を説いている。第二章「不安全行動災害を防ぐ」では、災害が発生した場合に、人の不注意を責める責任追求型では本質的に安全体質になっていないことを力説し、安全確認型の機能をハード側のシステムに組み入れて、性善説や性悪説など、実態のない安全議論よりは、実効のある災害防止策の重要性を指摘している。第三章の「安全に強い人づくり」では、安全な人を調べる20の要件と安全な人になるための10カ条を紹介している。第四章の「生きた5S活動」では、5Sを構成する整理・整頓・清掃・清潔・躰を人間教育活動と位置づけ、とくに躰についての具体的例が掲載されている。第五章の「災害が発生したら」では、安全管理担当者として何をすべきかが要領よくまとめられている。最後の第六章「安全べからずアラカルト」は、著者が長年の安全管理を担当して経験した思い（教訓）がエッセイ風に述べられている。